

WEEKLY REPORT

SAGA YAMATO ROTARY CLUB

国際ロータリー第2740地区 第1グループ

2011～2012年度国際ロータリーのテーマ

RI会長 カルヤン・バネルジー

(インド・バビRC)

第2740地区ガバナー

岩永 信昭

(長崎北東RC)



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

第854回例会

2012年2月7日(火)

プログラム

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| ① 開会点鐘 | ⑦ 幹事報告 |
| ② 開会の辞 | ⑧ 委員会報告 |
| ③ 国歌並びにロータリーソング
「奉仕の理想」 | 会 食 |
| ④ 四つのテスト | ⑨ 田代ガバナー補佐卓話
IMについて |
| ⑤ 来訪者紹介 | ⑩ クラブフォーラム |
| ⑥ 会長のあいさつ | ⑪ 出席報告、ニコニコBOX報告 |
| | ⑫ 閉会点鐘 |

MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



※ 次回例会 2月14日(火)

12:30～ 龍登園

創 立 1994/3/22
 例会日 毎週火曜日 12:30～13:30
 会場 ホテル龍登園 0952-62-3111
 第4火曜日 18:30～19:30
 会場 イタリアンレストラン吉野屋
 0952-62-3961

会 長 於保静枝 幹 事 浦川 容伸
 会報委員 浅川達夫 井手浩利
 事務局 佐賀市金立町千布3907
 TEL・FAX 0952-71-8418
 E-mail yrc@aqr.bbiq.jp



会長の時間

於保会長

皆さんこんにちは
 ついこの間お正月を迎えたばかりなのにもう1月が終わります。年を重ねるごとに月日が経つのがはやいと感じるようになりました。29日(日)に主人の三夜待仲間9組の夫婦で新年会がありました。今年はその中の3名が還暦を迎えるという事で、例年とはちょっと違った会になりました。還暦は、数え年で61歳の年に自分の生まれた干支、甲子(きのえ・ね)から癸亥(みずのと・い)まで60通りある干支に還るという意味からきています。第二の人生の出発を祝うとも昔から言われているようです。主人も昨年40年務めた職場を早期退職し、家業と一緒に頑張ってくれています。私はお蔭さまでロータリーや他の会にもどうにか出席できる状況にあり、主人に感謝しております。またその日は私の誕生日で、新年会から帰ると宅急便が届いており、思いがけない方々からのプレゼントに感激した一日でした。
 本日の外部卓話は、長谷川照様をお願いしております。長谷川様には短い時間で申し訳ありませんが会員一同楽しみにしておりました。どうぞ宜しくお願いいたします。

幹事報告

1. 東日本災害義援金に対するお礼

来訪者紹介

- ・長谷川照 様 (元佐賀大学学長)
- ・富崎一巳 さん (佐賀北RC)

出席報告

1月17日/マークアップなし	24名中17名(免除3名)	80.95%
1月24日/マークアップ1名あり	24名中14名(免除3名)	66.66%
1月31日/マークアップなし	24名中16名(免除2名)	72.72%

行事予定

月 日	行 事	会 場
2月14日(火)	第855回例会	龍登園
2月20日(月)	植 樹	巨石パーク
2月28日(火)	第857回例会	丸美屋

外部卓話



「アジアの国際人材育成」

話をする機会をいただきありがとうございます。

長谷川照 様

学長時代に国立大学の法人化をやるのかが辞めるまで分らなかった。

多様な国家の間の21世紀型競争の激化

これからの21世紀は、先進国、新興国、途上国、石油国に分けられる。アドバンテージは無い、後10年もすれば、並ぶであろう。

地球資源の開発と配分

ソ連が崩壊した後、中国とソ連は互いの利益を求め10年かけて協定を結び資源の輸送路を整備した。

大陸資源と海洋資源、アジア・太平洋経済圏

ロシア・中央アジア・トルコ経済圏

従来は資源を持っているG7の国は、投資をして、そこから資源をもらって生産業をして進んできたのが従来の構造。しかし、資源を持っている国が工業化してきており、10年もすれば化学技術も進む。

G10では 資源を持っていない国が半分。

大陸資源を持っているかどうか、21世紀成長するかどうかだ。途上国や新興国は、西欧型の近代化を進めているが、先進国の悪いところだけを真似て、ユーロ危機が起これば同じように景気が下がる。

ユーロ危機

ユーロ危機は誰も解決できない。

日本の危機、21世紀の社会

日本にとっては海洋資源の開発が重要。国策民営は、技術特許を取るべく国立大学を法人化。しかし卒業研究ができない、特許のために発表ができない。イノベーションをおこして国を成長させるには、科学技術の特許が必要だと考えた。国立大学はこのため法人化した。

佐賀大学の国際化

佐賀大学も国際交流留学生センターから国際交流推進センターと変わり、教授と准教を専任し予算を集中していこうと、佐賀県と佐賀市が動きだした。今、留学生も300名を数えている。

新聞でも国の人口は、2060年には、3割減と載っている。人口パワーが減ることは、衰退するということ。留学生30万人計画は、30万人を海外へ出して30万人を受け入れる。佐賀大学もDDPを取り入れた。二つの大学の卒業証明書を同時に取得することができる、大学の国際化を進めている。